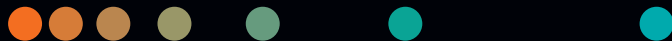


検査室の効率化がもたらす 医療貢献の進化



www.siemens-healthineers.com/jp



日本医療検査科学会第52回大会 ランチョンセミナー 3

オンデマンド配信期間：2020年10月1日(木)～31日(土)

*詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://jcls.or.jp/convention/top/>



**演題 1：検体検査業務のさらなる自動化と他部門へのタスクシフティング
～気送管システムと検体搬送処理システム Aptioのダイレクト接続による効率化～**

演者：加賀谷 範芳 先生
湘南鎌倉総合病院 臨床検査部 技師長

演題 2：生化学・免疫統合機Atellica Solution導入による検査の効率化

演者：櫛引 健一 先生
和泉市立総合医療センター 事務長

近年の少子高齢化の影響による医療環境の変化により、検査室に求められる業務は年々増加の一途を辿っています。しかしながら、長引く不況のため、各医療現場では経費の抑制を強め、業務量に合わせた十分なスタッフの増員・確保が難しくなってきていると考えられます。このような状況下、求められる業務に対応するためには、現在の実務を最大限効率化・省力化することで、現状のマンパワーの中からその時間とリソースを捻出する必要があります。当セミナーでは、さらなる業務の効率化を目指すべく、免疫生化学統合機 Atellica Solutionを軸としたトータルシステムを構築された二つのご施設から、これまでの使用経験、および導入効果についてご講演いただきます。

共催：日本医療検査科学会第52回大会
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

全自動尿統合型分析システム 「Atellica1500」の使用経験 ～導入効果と症例画像～



www.siemens-healthineers.com/jp



日本医療検査科学会第52回大会 ランチョンセミナー 19

オンデマンド配信期間：2020年10月1日(木)～31日(土)

*詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://jcls.or.jp/convention/top/>



演 者：二宮 早苗 先生
松山赤十字病院 検査部

当院では一日に尿定性検査約350件、尿沈渣検査約130件を検査技師2人で行っている。昨年11月、尿定性分析装置クリニテックノーバスと画像処理方式の尿中有形成分分析装置Atellica UAS800から成る「Atellica 1500」を導入した。画像確認は腎・泌尿器疾患に重要な成分の見落としの回避や、目視鏡検の選別を可能とした。さらに、既存の再検ロジックを再考することで鏡検率は低下した。結晶など形態が特徴的な成分は画像確認のみで充分鑑別可能であるが、病的円柱や異型細胞を疑う細胞が画像にみられた場合は目視鏡検で詳細に観察している。当セミナーでは、当院で経験した症例画像と無染色鏡検画像を対比し、異型細胞はS染色や尿細胞診によるパピニコロウ染色も併せて紹介したい。

共催：日本医療検査科学会第52回大会
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

SIEMENS
Healthineers